

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年8月25日(2016.8.25)

【公表番号】特表2014-510067(P2014-510067A)

【公表日】平成26年4月24日(2014.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2014-021

【出願番号】特願2013-555797(P2013-555797)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/137	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/167	(2006.01)
A 6 1 P	25/04	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/137
A 6 1 K	9/08
A 6 1 K	45/00
A 6 1 K	31/167
A 6 1 P	25/04
A 6 1 P	29/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年7月4日(2016.7.4)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0247

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0247】

【表13】

表12：カンジダ・アルビカヌスの微生物増殖

微生物カウント	プラセボpH8	タベンタドールpH8	タベンタドールpH3
細菌／真菌のスパイクされた量	$2 \times 10^5$	$1.7 \times 10^5$	$2.4 \times 10^5$
30分	$2.5 \times 10^5$	$< \times 10^4$	$2 \times 10^5$
7日	$3.4 \times 10^6$	$< \times 10^2$	$1.3 \times 10^3$
14日	試験せず	$< \times 10^2$	$1.8 \times 10^3$
28日	試験せず	$< \times 10^2$	$2.5 \times 10^3$
試験基準A	不合格	合格	不合格
試験基準B	不合格	合格	不合格

追加の保存剤がない場合、タベンタドール溶液pH3は、アスペルギルス・ニガーよりもカンジダ・アルビカヌスに関しては欧州薬局方（基準AおよびB）に従って十分に保存されないが、タベンタドール溶液pH8は、試験を行った全ての細菌および真菌に対して基準AおよびBを満たした。プラセボpH8溶液は溶液自体の保存効果を示さないので、タベンタドールHC1を含む製剤の抗菌効果はタベンタドールHC1の添加された量の結果である。この結果を考慮すると、タベンタドールHC1溶液の保存効果の明白なpH値依存性が示された。